

## いきいき健康術 第141回

町立病院・診療所の医師や専門職員が  
健康情報をお届けします。

### 『乳幼児健診でよくある相談』

いっせ 栄佑 医師 国保京丹波町病院(火曜日外来担当) 小児科



今回は、健診の際に良く受ける質問などについて説明します。

#### ● 赤ちゃんの哺乳

赤ちゃんの1回の哺乳時間が長すぎず(大体30分未満)、飲んだ後2~3時間程しっかり眠っていれば、十分哺乳できています。逆に、哺乳時間が長く、眠っても1~2時間ほどで泣いて起きてくる場合は、足りない可能性があります。体重増加が良くない状態が続くと脳や身体の発達が妨げられてしまいます。哺乳量が足りない場合は産院などで母乳相談をするか、直母を早く切り上げてミルクを足すなどしてください。



#### ● 皮膚症状

赤ちゃんは、お腹にいる時にお母さんから移行した女性ホルモンの影響で、顔を中心に発疹が出ることがあります。これは乳児湿疹といい、石けんの泡で優しく洗うなどのスキンケアで生後半年ほどの内に自然に良くなることが多いです。皮膚がはがれている、ジュクジュクしている場合は、塗り薬で皮膚の状態を良くしたほうが良いこともありますので、小児科・皮膚科にご相談ください。

#### ● 目やに、鼻づまり

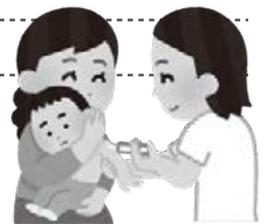
身体が小さい間は、目と鼻をつなぐ鼻涙管びるいかんや鼻の奥が狭く、目やにが出やすい、鼻の奥がフガフガ鳴る、ということはよくあります。目やには目薬で改善することが多く、鼻づまりも哺乳ができていれば問題ありません。もし、目やにが全く改善しない・目の周りが赤く腫れる場合は眼科に、鼻づまりで哺乳できない、胸や喉元がペコペコとへこむ場合は小児科にご相談ください。

#### ● 発達

赤ちゃんの大まかな運動発達の指標として、3~4カ月でくびがすわる、5~6カ月で寝返り、8~9カ月でハイハイ、1歳頃にひとりで立つ、といわれています。個人差もありますが、筋力が非常に弱い、前にできたことができなくなった、などがあれば迷わず小児科にご相談ください。気になる身体の動きや症状がある場合は、スマートフォンなどで動画や写真を記録していただくと大変参考になります。また、言葉の発達に関しては耳の聞こえが非常に大切ですので、音に対する反応が鈍い様子があれば、早めに耳鼻咽喉科にご相談ください。

#### ● 予防接種

予防接種は、後遺症をきたす病気や治療法がない病気、命に関わることを予防するものです。実際、肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチンのおかげで、化膿性髄膜炎になる子どもは激減しています。予防接種には発熱や腫れなどの副反応があり、心配する方もいらっしゃると思いますが、副反応の症状は数日で自然に治まり、本当に病気になった時に比べればはるかに症状は軽く、予防接種により後遺症や危険な合併症を防ぐことができます。



予防接種のスケジュールやその他のことでも、気になることがあればぜひご相談ください。

町立医療施設の敷地内は全面禁煙です。ご理解とご協力をお願いします 京丹波町病院 電話 0771-86-0220